

## woman たらす



## 白鷹織 (山形県)

最上川上流に位置する山形県置賜地方は伝統的織物の産地として知られています。もともと上布の原材料となる青苧あおそなどの産地でしたが、米沢藩主・上杉鷹山の殖産振興によって養蚕が奨励され、さまざまな絹織物が生まれました。特に白鷹町しらたかでは板締いたじめ

## 織り目が表情つくる

拵がすり、お召、手綾織てあやなど貴重な手仕事てあやが現在まで残っており、白鷹織と呼ばれています。

今回ご紹介するのは白鷹の手綾織。綾織とは経糸と緯糸の交差する織り目が斜めになっている織物のことで、糸の飛ばし方や密度の違いによってさまざまな織り目ができます。光の加減でこの織り目が文様のように浮かび上がり、着物に表情をつくります。経糸と緯糸は生糸。このため細とは呼べないほどの光沢感があり、趣があります。落ち着いた色合いは桜と刈安かりやす、矢車やしゃによる草木染です。

白鷹の手綾織は丈夫で体なじみもよく、私自身、長年愛用している着物の一つです。帯合わせは万能と言ってもいい

いのですが、特に同じ職人が作った雪花織の帯を合わせるとしっくりとなじみ、独特の品格が漂います。場を選ばない包容力が頼もしい組み合わせです。

雪花織の小花を散らしたような文様は、沖縄の花織が伝わったものだといわれます。花織が生まれた南国とは違い、白鷹は冬には数センチの雪が積もる豪雪地帯。その雪さえも花に見えるように雪花織と名付けたと職人が話してくれました。あでやかな沖縄の文様に比べると、雪花織は控えめで落ち着いた雰囲気。東北らしいシンプルな色と文様が、着物を美しく引き立てます。

(田中陽子・「暮らしのク



ラフトゆずりは」店主)

〈第4金曜日掲載〉

白鷹町で作られた手綾織の着物と雪花織の帯